

# 経済・金融 フラッシュ

## 消費者物価(全国 09年10月) ～物価下落品目数が6割を超える

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. コア CPI の下落率は 0.1 ポイント縮小

総務省が11月27日に公表した消費者物価指数によると、10月の消費者物価(全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI) は前年比▲2.2%となり、下落幅は前月から0.1ポイント縮小した。事前の市場予想(ロイター集計: ▲2.2%、当社予想も▲2.2%)通りの結果であった。

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合は前年比▲1.1%(9月:同▲1.0%)、総合は前年比▲2.5%(9月:同▲2.2%)となった。

消費者物価指数の推移

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合
08年 4月	0.8	0.9	▲0.1	0.6	0.7	0.0
5月	1.3	1.5	▲0.1	0.9	0.9	0.1
6月	2.0	1.9	0.1	1.5	1.3	0.3
7月	2.3	2.4	0.2	1.6	1.6	0.3
8月	2.1	2.4	0.0	1.3	1.5	0.2
9月	2.1	2.3	0.2	1.4	1.7	0.5
10月	1.7	1.9	0.2	1.2	1.5	0.4
11月	1.0	1.0	0.0	1.1	1.1	0.2
12月	0.4	0.2	0.0	0.8	0.8	0.2
09年 1月	0.0	0.0	▲0.2	0.5	0.5	▲0.3
2月	▲0.1	0.0	▲0.1	0.5	0.6	▲0.1
3月	▲0.3	▲0.1	▲0.3	0.2	0.4	▲0.4
4月	▲0.1	▲0.1	▲0.4	▲0.1	0.0	▲0.6
5月	▲1.1	▲1.1	▲0.5	▲0.8	▲0.7	▲0.9
6月	▲1.8	▲1.7	▲0.7	▲1.5	▲1.3	▲1.0
7月	▲2.2	▲2.2	▲0.9	▲1.8	▲1.7	▲1.1
8月	▲2.2	▲2.4	▲0.9	▲1.7	▲1.9	▲1.1
9月	▲2.2	▲2.3	▲1.0	▲2.1	▲2.1	▲1.4
10月	▲2.5	▲2.2	▲1.1	▲2.4	▲2.2	▲1.4
11月	—	—	—	▲2.2	▲1.9	▲1.3

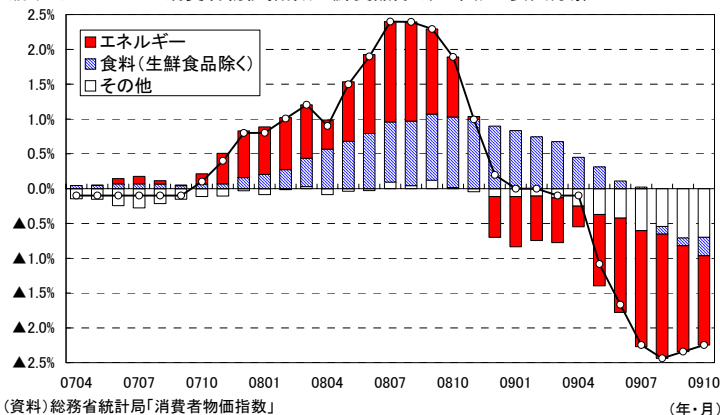
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳を見ると、電気代(9月:前年比▲5.9%→10月:同▲6.7%)、ガス代(9月:前年比▲5.4%→10月:同▲7.2%)は下落幅が拡大したが、ガソリン(9月:前年比▲25.1%→10月:同▲19.4%)、灯油(9月:前年比▲41.8%→10月:同▲37.1%)の下落幅縮小の影響がそれを上回り、エネルギー全体では前年比▲14.1%(9月:同▲16.3%)と下落幅が縮小した。

食料品(生鮮食品を除く)は前年比▲1.1%と前月の同▲0.5%から下落幅が拡大した。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲1.28%(9月は▲1.52%)、食料品(生鮮食品を除く)が▲0.27%(9月は▲0.11%)、その他が▲0.70%(9月は▲0.71%)であった。

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解

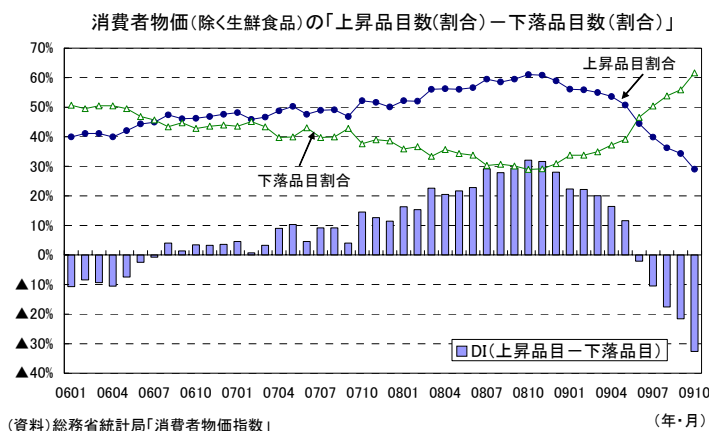


(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

(年・月)

## 2. 物価下落品目数が6割を超える

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、10 月の上昇品目数は 152 品目（9 月は 180 品目）、下落品目数は 323 品目（9 月は 293 品目）となった。上昇品目数の割合は 29.0%（9 月は 34.4%）、下落品目数の割合は 61.6%（9 月は 56.5%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲32.6%となり、前月の▲21.6%からマイナス幅が大きく拡大した。下落品目数の割合が 6 割を超えるのは 04 年 1 月以来であり、物価下落の動きがより広がりを見せていることを示したものと見えよう。



## 3. コア CPI の下落率は年度末にかけて 1%台で推移する見込み

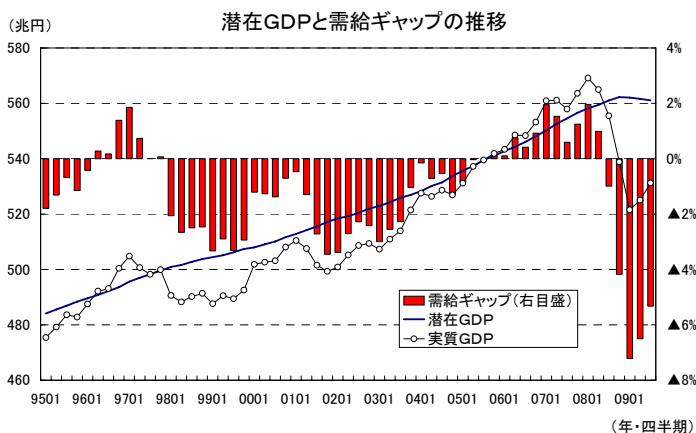
11 月の東京都区部のコア CPI は前年比▲1.9%となり、下落幅は前月から 0.3 ポイント縮小した。事前の市場予想（ロイター集計：▲2.0%、当社予想も▲2.0%）を若干上回る結果であった。

ガソリン（10 月：前年比▲19.1%→11 月：同▲4.2%）、灯油（10 月：前年比▲36.3%→11 月：同▲23.4%）の下落幅が急速に縮小したため、エネルギー全体では前年比▲9.4%（10 月：同▲12.7%）と下落幅が大きく縮小した。食料品（生鮮食品を除く）は前年比▲1.7%と 6 ヶ月連続で下落したが、前月の同▲1.8%からは下落幅が若干縮小した。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲0.55%（10 月は▲0.76%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.38%（10 月は▲0.40%）、その他が▲0.95%（10 月は▲1.00%）であった。

全国コア CPI の下落率は 11 月に 1%台後半となった後、年度末にかけてマイナス幅は徐々に縮小していく可能性が高い。ガソリン価格の前年比下落率はこのところ急速に縮小しているが、12 月にはプラスに転じることが見込まれる。また、需給バランスの悪化に伴う物価下落圧力も先行きは徐々に緩やかとなる可能性があるだろう。

なお、当研究所推計の需給ギャップのマイナス幅（GDP 比）は、2009 年 1-3 月期の▲7.2%（約 40 兆円）から 7-9 月期には▲5.3%（約 30 兆円）まで縮小している。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。